

第6学年「外国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 知識として外国語（英語）の単語を知っている子が多い。

○ 簡単な文章や単語を書くことに抵抗感がない。

課題 ▼ 声に出して話してみることが苦手。

▼ 授業が受け身になっていて、自分から意欲的に調べようとするのが少ない。

▼ 人の前で発表したり、周りの子に話したりすることに抵抗感を抱く子が多い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

◇ 積極的に声に出して、自分なりに考えを伝える力。

◇ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

○ コミュニケーションゲームなどを使った学習の理解を通して主体性を養う。

言語活動の工夫

○ 毎授業ごとに、周りの人に話す活動を取り入れる。

I C T 活用の工夫

○ デジタル教科書を用いて、具体的な視覚的支援を行い学習への理解を深める。

課題解決力育成の工夫

○ 自らテーマを持たせる学習内容も取り入れて英語を通して課題を解決していく姿を養う。

達成目標

□ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、聞く、読む、話す、書くコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。

□ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。